

平成29年 9 月26日
於 ホテル白萩

宮城県高等学校
柔道審判講習会資料②
(改正の要点)

主 催

宮城県高等学校体育連盟柔道専門部

国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020) 改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/2/3

審判規定改正の目的

過去4年間で柔道が、とても前向きな進化を遂げたのは明らかである。リオオリンピックにおける成功は、これを具体的に証明している。ここ数年で選手の技術的な能力は大きく向上した。例えば、大会におけるテクニカルスコアの数は一気に増えた。2015年8月にカザフスタンで開催されたアスタナ世界選手権においては、いくつかの階級において80%以上に上った。

今回の分析は、IJF理事、増員された柔道に関する専門家や柔道ムーブメントに関わるメディア代表者の監督下で行われた。今回の分析を受けて公表された、いくつかの変更や改正された規定が、今後、柔道に、より明快さとダイナミックな動きをもたらすことになると考えている。新しい規定は、各国連盟や20名から構成されるIJFコーディネーション委員会ディレクターからの提案を基に精査され、その後IJF専門家ならびにテクニカル部門のIJF理事により分析された。広く（情報を）共有し、民主的な同意を経て、今回これらの案が採用された。これらは、柔道の根本的な価値、道徳を踏まえて作成されており、我々の柔道が生きたスポーツとして現代の流れに適合し、より多くの観衆を魅了するであろうことを保証するものである。

採用される審判規定については、1月にアゼルバイジャンのバクーで開催された審判・コーチングセミナーで発表された。柔道家、コーチ、ファン、メディアは、IJFユーチューブチャンネル (www.youtube.com/judo) において、1月6日、7日よりバクーのセミナーを見ることが出来る。

まず、審判員、コーチ、各連盟ならびに大陸の代表者に対し、新しい規定の各ポイントについて講義と実技講習を用いて詳細に説明される。それから試験期間が開始される。試験期間中、新しい規定は必要があれば改正される。この過程により、我々柔道コミュニティは、次のオリンピック出場資格獲得サイクルを、より最適な審判規定をもって開始することが出来る。ブダペスト世界選手権の終了後に、次回オリンピック出場資格獲得期間に適用される審判規定を決定する会議が開催される。

以下が新しく見直された規定の要点である。

国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)

改正の要点

国際柔道連盟発信
2017/2/3

試合時間

- 男女共に試合時間を4分とする。これは、IOCが男女の公平性を求めていること、ならびにオリンピックにおける男女混成団体戦で試合時間を統一するためである。

スコア

- スコアは、「一本」と「技あり」のみとする。
- 「技あり」には、今までの「有効」も含まれる。
- 「技あり」2つでも、「一本」と同等とはしない（“合わせ技一本”の廃止）。

抑え込み時間

- 10秒で「技あり」、20秒で「一本」とする。

試合の決着

- 規定試合時間（4分）において、試合は「技あり」、もしくは「一本」のテクニカルスコアでのみ決着がつくこととする。
- （直接もしくは累計による）「反則負け」を除き、「指導」（1回目、2回目）の違いだけでは勝者を決定しない。
- 「指導」は、相手のスコアとはならない。

ゴールデンスコア

- 規定の試合時間が終了した時点で、試合両者にスコアがない場合、もしくはスコアが同等である場合、「指導」の有無にかかわらず、その試合はゴールデンスコアに突入する。
- ゴールデンスコアに入る前の規定試合時間内に与えられたスコア、ならびに罰則は、引き続きスコアボードに反映される。
- スコアが与えられた時点で、ゴールデンスコアは直ちに終了する。
- ゴールデンスコア中に「指導」が与えられた場合、与えられた選手が相手よりも多くの「指導」を受けたことになる場合、その試合は終了する。
（別紙資料 ゴールデンスコア参照）